

⑤ Int.Cl.⁴

H 04 M 1/00

識別記号

庁内整理番号

B-7608-5K

④ 公開 昭和64年(1989)3月2日

審査請求 未請求 発明の数 1 (全3頁)

⑥ 発明の名称 音声呼出し付き電話機

⑦ 特 願 昭62-211849

⑧ 出 願 昭62(1987)8月25日

⑨ 発 明 者 小 堀 隆 司 東京都港区芝5丁目33番1号 日本電気株式会社内

⑩ 出 願 人 日本電気株式会社 東京都港区芝5丁目33番1号

⑪ 代 理 人 弁理士 内 原 晋

明 細 書

1. 発明の名称

音声呼出し付き電話機

2. 特許請求の範囲

- 1) 着信信号があると、音声呼び出しをする音声発生手段を備えている音声呼出し付き電話機。
- 2) 前記の音声発生手段が、前記の着信信号で駆動されて音声信号を送出する音声発生部と、該音声信号を拡声するスピーカ部とからなる前記特許請求の範囲第1項に記載の音声呼出し付き電話機。
- 3) 前記の音声発生手段が、音声呼び出し選択信号ならびに前記の着信信号があると駆動されて音声信号を送出する音声発生部と、該音声信号を拡声するスピーカ部とからなる前記特許請求の範囲第1項に記載の音声呼出し付き電話機。

3. 発明の詳細な説明

(産業上の利用分野)

本発明は電話機に関し、とくに同じ形式の複数台の電話機を同じ場所で集中して使用する場合に好適な電話機に関する。

従来、同じ形式の複数台の電話機を同じ場所で集中して使用する場合、ある電話機に着信があったときに、どの電話機が鳴っているのか分からないため、迅速に電話応対が出来ないことがあった。とくに、2～3台の電話機にほぼ同時に着信があると、どの電話機が鳴っているのか分からない場合が多々あった。

(発明が解決しようとする問題点)

上述したように従来の電話機は、集中した場所で複数の同じ電話機を使用した場合、呼出しベルが同じため、同時着信すると、どの電話機が鳴っているのか分からないという欠点がある。

(問題点を解決するための手段)

本発明の電話機は、着信信号があると、音声呼び出しをする音声発生手段を備えている。

(作用)

したがって本発明によると、オフィス内で複数台の同じ電話機を同じ場所で集中して使用する場合、同時に数台の着信があっても、音声呼び出しにより、どの電話機に着信があったかを、正確か

つ迅速に知ることができる。

(実施例)

以下に本発明を、その実施例について図面を参照して説明する。

第1図は、本発明による一実施例を示すブロック図で、通常、相手側から発信された電話呼出し信号は回線対応部1で受け、回線対応部1は着信信号aを出力して、呼出しベル部2のベルを鳴動させる。呼出しベル部2はベルを鳴動させると同時に着信信号cをオンにする。なお、図示略の受話器を上げると着信信号a、cはオフになって、図示略のベルは鳴り止む。

設定スイッチ部6は、該当の電話機10を所望の番号に設定させる為の選込み用スイッチであり、選込みする場合には設定可能信号fを出力する。選択部5は設定可能信号fを入力した時に、テンキー部4からのボタン信号d_iにより、たとえば1～9番を選択する選択信号eを出力保持し、その後設定可能信号fがオフになっても選択信号eの出力が保持される。

(発明の効果)

以上説明したように本発明は、相手側との発着信制御をする回線対応部と、自身に着信があったことを知らせる呼出しベルと、相手側に電話をかける為のテンキー部と、前記テンキー部からのボタン信号をダイヤル信号に変換するダイヤル部と、自身の電話機が何番であるかを音声呼出しすることを可能にする為の設定スイッチ部と、設定スイッチ部からの音声呼出し可能信号と前記テンキー部からのボタン信号により自身が、たとえば1～9番のいずれかを選択する選択部から出力された信号により自身が1～9番のいずれかの音声呼出しをする音声発生部と、発生された音声を拡声するスピーカ部と、で構成されるため、複数の同じ電話機を同じ場所で集中して使用する場合に、電話着信を音声にて呼出しできるから、正確かつ迅速に電話応対できる効果がある。

また、単独で使用する場合には、通常の呼出しベルのみとしても使用が可能であるという効果がある。

音声発生部7には、たとえば“1番が御電話です”という内容が、1～9番についてそれぞれが記憶されている。選択信号eがオンであると共に、着信信号cがオンになると、音声発生部7に記憶されている、たとえば“1番が御電話です”という音声合成が、音声信号gとしてスピーカ部8に出力され、該スピーカ部8から“1番が御電話です”と拡声される。なお、音声合成の内容は、設計時に音声発生部7に書き込み固定して置く。

相手側への発信については、テンキー部4よりボタン信号dをダイヤル部3に出力し、該ダイヤル部3を介してダイヤル信号bにより回線対応部1を介して相手側に発信する。

なお、音声呼出しを行う時には、呼出しベルのボリュームを小さくして置くとより効果的である。

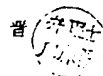
また、音声呼出しを使用しない場合には、選択信号eの出力を停止しておく。この場合、呼出しベル部2からの着信信号cがオンになっても、音声発生部7は駆動されないことになり、スピーカ部8からは音声出力されないことになる。

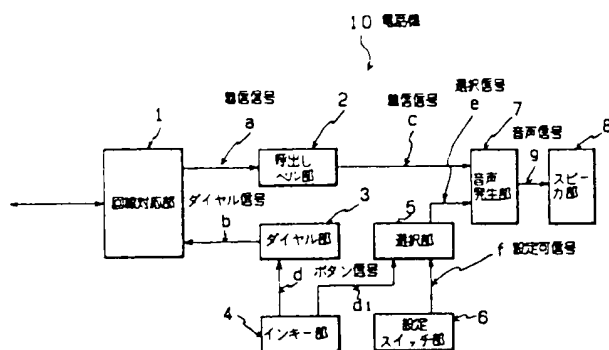
4. 図面の簡単な説明

第1図は、本発明による一実施例を示すブロック図である。

- | | |
|----------|------------|
| 1…回線対応部、 | 2…呼出しベル部、 |
| 3…ダイヤル部、 | 4…テンキー部、 |
| 5…選択部、 | 6…設定スイッチ部、 |
| 7…音声発生部、 | 8…スピーカ部。 |

特許出願人 日本電気株式会社
代理人 弁理士 内原 省





第 1 図